

8月31日(月)

## 時 が 来 ま し た

聖書朗読 ヨハネ17：1～5

イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。」

ヨハネ17：1

私が教会で伝道者として働き始めたのは 結婚はしていましたが、まだ若い21歳の時でした。1日の始まりに、病院や老人ホームを訪問するのが私の日課でした。病気の老婦人を訪問した時、帰り際に腕を伸ばして一緒に祈って (pray) いいかどうか尋ねました。彼女は少し困惑した表情をし、笑顔でこう言いました。「ありがとう。でも私は年寄りだから遊ぶ(play)のは 難しいわ。」彼女は私が一緒に遊ぼう (play) と言ったのだと思ったのでした。彼女は自分の「遊ぶ時」は終了したと分かっていました。彼女は私がそれを知らないと思ったのでした。

ニューインターナショナル版の聖書では、「時が来ました。」という表現を7回使っています。それぞれの場面で神様の唯一無二のタイミングのことが語られています。40年以上に渡る伝道者としての人生で、私は少なくとも2つのことを学びました。1) 私のタイミングは神のタイミングと同じだったことはほとんどない。2) 神のタイミングはいつも正しい! 私としては 神様にすぐに動いていただきたいという思いがあります! 神様は度々私たちに待つ必要があるとお思います。何年か後に振り返って、神様のタイミングにいつも感謝しています。「わたしの思いは、あなたがたの思いと異なり、わたしの道は、あなたがたの道と異なるからだ。」と神様は宣言なさっています。(イザヤ55：8)

讃美歌 294

祈り 神様、イエス様のように私の人生でのタイミングを受け入れることができますように。そして、あなたにお任せすることができますように。

イエス様のお名前を通して祈りいたします。アーメン。

ブルース・M・ヘンダーソン  
ネバダ州 カーソンシティ

## 今日 の 力

2020年8月31日～9月6日

翻訳 ハンコック・真由美

編集 野口 恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

9月1日(火)

## ただこの人々のためだけでなく

聖書朗読 ヨハネ17:20~26

もし、あなたがたがわたしの父の戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまってるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。  
ヨハネ15:10

今日の聖書朗読の箇所は、イエス様の大祭司の祈りのところです。イエス様がこの世の生涯を終える時がより近づいていました。私たちは、友人や愛する人の最期の言葉や最期に近づいた頃に発せられた言葉を重く受け止めます。この箇所は、記録に残っている中で一番長い私たちの主が祈っている場面です。イエス様は弟子のために祈りました。しかしそれだけではありませんでした。「彼ら(弟子)のことはによってわたしを信じる人々のためにも」祈ってくださいました。つまりは、あなたや私のためです!「シモン、シモン。見なさい。サタンがあなたがたに妻のようにふるいにかけることを願って、聞き届けられました。しかし、わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました」(ルカ22:31~32)。イエス様が特にペテロに特別に声をかけて祈ってくださったと知ることは、ペテロにとってどれほど勇気付けられた出来事でしょうか。ペテロのために祈ってくださった同じイエス様が、私たちが弟子になる以前から私たちのために祈ってくださったのです。もし私たちが福音に従う前から祈ってくださっていたのなら、イエス様は今でもなお私たちのために祈ってくださっていると考えるのは容易いことです。「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」(ヘブル7:25)

讃美歌 238

祈り 主よ。「神の存在を思う」以上の最善な人生はないと考えることのできる謙遜な信者としての姿勢を持つことができますように。

仲裁者であられるキリスト様を通してお祈りします。アーメン。

ロバート・W・ローレンス  
ネバラスカ州 ヨーク

9月2日(水)

## 行間の希望

聖書朗読 ヨハネ18:18~32

私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しません。ただ、静かにしていただき。  
1テモテ2:12

編集者から「望みを題材にしたディボーショナル」でこの聖書箇所を使うように提案されました。正直に申し上げますと、この聖句から希望について話すのは難しいです。私は、この課題に時間をかけて取り組みました。そうする中で、私は希望のストーリーを改めて考えることができました。時として、人々や出来事が自分がしたいことに反するように見える時があります。それが、重大なことであれば、落胆し、いいことなんてあるのだろうかと失望してしまいます。個人的な話ですが、私は時々その時の感情に任せて行動してしまい、間違ったり正しくないことをしたり、やめてしまったり、後悔するような言葉を口走ってしまうことがあります。絶望している時は、そういう行動をとりがちです。

イエス様はそういう状況に直面した場合どうなさったのでしょうか。イエス様は心の中で解決なさいました。ご自分の望みはご存知でした。「この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」というのがイエス様の望みでしたが、それ以上に「わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください」とおっしゃいました。その中に望みがあるのです。この状況がいつ終わるのか私たちにはわかりません。恐れ、落胆、失望と対峙することになるかもしれません。しかし、私たちには「わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」という望みがあります。実際、「主」の力が働いている時にこそ「私」の力のなさをはっきり理解できるのです。

讃美歌 243

祈り 親愛なる主よ。私たちは失望する時があるのを知っています。その時が来る前に、そうなりませんようにと祈ります。それ以上に、天でなされるように、あなた様が望まれるままに、私にそして私を通してなさってください。私の弱さがあなた様の力強さで満たされるということを忘れないように助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

リチャード・ホール  
テキサス州 ノースリッチランドヒル

9月3日(木)

## この世的ではない王国

聖書朗読 ヨハネ18:33~40

イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

ヨハネ18:36

時々私たちはこの世が神の国であるかのように生活することがあります。どういうことかという、この世の人々と同じように、この世の物に支配されてしまうということです。確かに、主に仕える人たちは、時折戦わなければなりません、何のために戦うかが重要です。イエス様を信じている者でも、地上の物が全てであると錯覚すると、物質的利益や経済的な成功が最も重要なものに見えます。そうすると不安、恐れ、心配は、主を信じる者の心に頻繁に蔓延します。

しかし、パウロは、エペソの教会にこのように述べて、イエス様の教えを思い起させました。「しかし、あなたがたはキリストをそのように学んだものではありません」(エペソ4:20)。つまり、この世に焦点を合わせるのではなく、イエス様に焦点を合わせなさいと言っているのです。わたしには、一緒にトランプをする古くからの友人がいます。彼は自分の番をパスする時、テーブルの向こう側の私を見て、「あなたの力に屈します。」といいます。ポイントは、イエス様にあなたの個人的な王様になって支配していただき、その力に屈することです。

みめぐみを身に受くれば、  
我らも今は強し。  
み力に寄り頼みて  
み戦いの先に立たん。

——フランシス・R・ハバガル

讃美歌 448

祈り 主よ。主を愛します。どうぞ神様の妨げにならないように導いてください。いつも神様のみ力のもとで過ごすことができますように。イエス様のお名前を通して。アーメン。

ブルース・ヘンダーソン  
ネバダ州 カーソンシティ

9月4日(金)

## 信仰か恐れか

聖書朗読 ヨハネ20:19~27

こうして、キリストがあなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちにすんでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。 エペソ3:17~19

彼らは夜、集会をしていました。隠れてです。戸には鍵をかけていました。ユダヤ人関係者を恐れてです。彼らはイエス様に起こったことを目撃していました。誰も十字架にかけたくはなかったのです。

突然イエス様が彼らの真ん中にお立ちになられました。幽霊ではありませんでした。彼らはイエス様の傷ついた手と脇腹を見ました。そして、我を忘れて喜びました。主は生きておられる！それだけではなく、イエス様は聖霊を彼らに吹きかけました。そして、イエス様は消えてしまわれました。

一週間後に弟子たちは同じ家に集まっていた。戸には鍵がかけられていました。なぜでしょう？彼らは何も学ばなかったのでしょうか。まだ恐れているのでしょうか。

車のドアや自宅や会社に鍵をかけるのは罪ではありません。それはすべきことです。しかし、主を信ずる私たちは、時として、未だに恐れの中で生き続けてはいませんか。私たちは、恐怖を感じるかもしれない物事や他の人に対して心の戸に鍵をかけてしまう時があります。死からイエス様をよみがえらせてくださった神様ではなく、自分を守ることに重きをおいてはいませんか。神様は私たちが恐れているものから救い出すことのできるお方です。恐れなくて進んで行くとき、イエス様はあらゆるものから救い出してくださいるのではないのでしょうか。

讃美歌 291

祈り 愛なる神様。あなた様への信仰を増させてください。大きな恐れや小さな恐れから解放してください。イエス様のお名前を通してみ前にお捧げいたします。アーメン。

ギャリー・ホローウェイ  
テネシー州 ナッシュビル

9月5日(土)

## これより私を愛しますか？

聖書朗読 ヨハネ21:15~19

あなたもあの人の弟子ではないでしょうね。

ヨハネ18:25

罰するか、前向き思考になる訓練か？今日の聖句は、神様との約束に従うことがどれほど不可能かを痛いほど思い出させてくれます。必要ならばイエス様と一緒に死ぬ覚悟があると自信たっぷりに言い放った後、ペテロはイエス・キリストの弟子であることを3度否定しました。私たちはパウロに厳しい目を向けることはありません。なぜなら、誰でもある意味イエス様を否定した経験があるからです。

しかし、ここに福音があります。イエス様はペテロを罰しないで(しかし、ペテロは思い出して苦しい思いをしました)家に招いてくださいます。イエス様がペテロに質問した時、ペテロはイエス様を否定した重荷にうちひしがれていました。「あなたはわたしを愛していますか」とイエス様は3回言われました。ペテロは肩をがっくり落として、最後の質問に「主よ、あなたはすべてをご存じです。」と答えました。そして、イエス様は愛には代償が伴うということを話されました。それは、ペテロが前にイエス様に差し出しますと言っていたもの、つまり自分の命そのものを差し出すことがイエス様に従うことであることを伝えたのです。

そして、この話はすばらしい結末へと導きます。短い言葉ですが、イエス様を否定してしまった私たちにとってとても美しい言葉です。イエス様は仰います。それは「私に従いなさい」です。私たちが以前何をしたか、何を言ったか、どういう経験をしたかは問題ではありません。イエス様は、私たちが、自分の全てを受け入れ、現実を目を逸らさず、自分の罪を悔い改め、従ってきなさいとはっきりと仰っています。さあ、イエス様に従いましょう。

讃美歌 312

祈り 赦しの救い主よ。あなた様の驚くほどの尽きることのない愛を感謝いたします。あなたの信仰深い弟子でない時があったことを告白します。あなたはすべてをご存知で、私たちがあなたを愛してることもご存知です。私たちが悔い改めるときに優しい言葉で「私に従いなさい。」と答えてくださいますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アール・D・ラベンダー  
テネシー州 ブレントウッド

9月6日(日)

## さよならは嫌い

聖書朗読 使徒1:6~11

私は肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序と、キリストに対する堅い信仰を見て喜んでいきます。

コロサイ2:5

娘が大学に入学した時こう言いました。「お前はもう何をすることも自由だ。自分でなんでも決めるといい。」喜びをもってこうも言いました。「でも、パパが必要ならいつでも言ってくれ。お前はいつでも私の心の中にいるよ。」しかし、そうは言っても、私は、自分の一部を失くしたように焼け付くような痛みを感じていました。

さよならは、痛みをともなうし、必要なことです。そうしないと、新しいことに挑戦はできませんし、成長もしませんし、神様が思い描いているようになることができません。

イエス様は去らなければなりませんでしたが、弟子たちをそれに不満を持つ必要はありませんでした。この時からイエス様は目に見える形では一緒にいないのだけれど、一緒にいてくださるようになりました。目で見たり触ったりみ声を聞いたりすることはできなくなりましたが、イエス様はそこに共におられ弟子たちを導いてくださったのです。

白い衣を着た人たちは正しかったのです。私たちは神を思い瞑想するのではなく、神と会話し、日々自分の罪を告白し、人々を教え、人々に仕え、人々を愛し、信仰によってこの世で生きることに真摯に取り組まなければなりません。

ですから、神様に立ち返って、イエス様に倣い、この世界であなた自身を捧げましょう。主が戻られるまで。

讃美歌 332

祈り 親愛なる主よ。あなた様にお目にかかりたいですし、親交を深めたいです。私たちは仕えるために生きています。新しい試練に直面するときに助けていただき、神様が望んでいるようになりますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

チャールズ・コールストン  
ケニア ナイロビ